

土木工学・建築学委員会（第25期・第11回）  
議事要旨

I 日 時 2022年11月25日（金）10：00～12：00

II 会 場 遠隔会議

委員：小林潔司、田辺新一、佐々木葉、竹内徹、  
池田駿介、沖大幹、小池俊雄、塚原健一、林春男、古谷誠章、前川宏一、米田雅子  
（下線欠席）出席11名

配布資料

- 資料1 分科会等からの活動報告（R4.12第3部会資料）
- 資料2 IRDR分科会意志の表出関連資料
- 資料3 インフラ高度化分科会意志の表出関連資料
- 資料4 脱炭素社会分科会意志の表出関連資料
- 資料5 公開シンポジウム企画関連資料
- 資料6 感染症分科会活動関連資料
- 資料7 JCOSSAR2023の開催について
- 資料8 未来の学術振興構想評価小委員会委員推薦について

議 事

冒頭に小林委員長より第25期の残りの活動期間の充実への協力依頼の挨拶があった。

1) 小委員会および分科会からの活動報告

資料1により各分科会の活動が確認された。

2) 意思の表出を行う分科会からの申出書等の確認

・IRDR分科会

すでに委員会で承認されている提言「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」の申出書の更新内容と関連して企画している 2023 年 9 月の開催が決定した旨の報告が林委員より行われた。

- ・インフラ高度化分科会

見解「越境しあうインフラガバナンスを実現するために：性能とサービスをつなぐ」の申出書について、小林委員長から説明された。本テーマは 24 期、25 期を通じて議論し、2022 年 8 月開催の公開シンポジウムでの議論もふまえての内容である。申出書に対して第 1 部、第 2 部の委員から言葉の定義がわからないという意見が出される可能性があるため、この点を明快にすることが望まれるというアドバイスが米田委員より出された。これらも踏まえ、本見解の表出を本委員会として承認した。

- ・脱炭素社会分科会

報告「脱炭素社会を取り巻く現状と課題」の申出書について、田辺委員から説明された。本案件の社会情勢の変化が目まぐるしいため現状と課題を取りまとめた報告とし、表出を令和 5 年度秋を予定している。脱炭素都市という場合の都市の領域や含まれる建築物の範囲についての質問が米田委員、佐々木委員から出された。これらも踏まえ、本報告の表出を本委員会として承認した。なお本分科会は環境学委員会と合同設置であるため、今後環境学委員会にはかかっていく。

### 3) 公開シンポジウムについて

- ・デザイン分科会

都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会主催の公開シンポジウムとして「デザインの概念とその広がりー社会的理解をめざして」の企画案について、佐々木委員から説明された。本分科会でこれまでお招きした専門家を中心にご講演いただき、全体で議論する。開催趣旨をふくめて本委員会として了解した。

・気候変動と国土分科会

気候変動と国土分科会主催の公開シンポジウムとして「水害対策と建築分野の取り組み」の企画としてすでに事務局に提出されている内容について、池田委員より説明され、本委員会としても確認した。

4) 感染症分科会からの報告

感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市の再考分科会活動報告として、前回確認済みの公開シンポジウムの内容およびそこでの議論の材料とするために分科会で実施したアンケート結果が竹内委員より説明された。建設の設計・研究、施工管理、業務統括等に携わる140名のアンケート結果から、ポスト・コロナの働き方、住まい方についての実態と意向が説明された。パンデミック下において進んだ多様な働き方、住まい方の好ましい点、クリエイティブな共同ワークにおける課題、自立分散型都市地域構造の観点からみた居住地選択などの観点から、意見交換がなされた。

5) 公開シンポジウム「第10回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム

(JCOSSAR2023)」の開催について

上記シンポジウムの開催告知がすでになされたが、開催日が2023年10月25日であり、主催者である学術会議としては第26期開始直後で委員会体制等が定まっていない時期であることがかねてより懸念されている。この点については第26期も会員である佐々木幹事が対応することを想定して進めることが確認された。

6) 科学者委員会学術研究振興分科会 未来の学術振興構想評価小委員会委員推薦について

小林委員長と佐々木幹事が担当することとなった。

7) その他および今後の予定について

その他として以下の話題が提供された。

- ・第24期に本委員会から出された提言「免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策」を契機に整備されることとなった実大免震試験機が今年度中に完成の運びとなったことが米田委員から報告され、竹内委員からもその様子が紹介された。これを機に、来年の全大会でこの件についての講演を竹内委員および高橋良和京都大学教授に依頼することが提案され、了解された。
- ・2023年5月のG7開催に合わせて開催されるGサイエンスにおける声明の準備状況が小池委員から紹介された。学術会議が主催し、海洋、健康、気候変動の3つのテーマについての声明内容が準備され、2023年2月、3月の会議をへて確定していく予定である。

- ・本委員会から話が始まった土木学会と建築学会の MOU について、その更新を機とした

シンポジウムを 12 月 12 日に開催する予定であることが田辺委員から報告された。

- ・2023 年の本委員会の今後の開催は、3 月、5 月（全大会）、9 月とし、日程調整を行う

こととした。

（開催日程については、その後調整の上、以下とした。）

第 12 回 2023 年 3/14（火）10～12 時

第 13 回 2023 年 5/29（月）15～17 時

第 14 回（仮）2023 年 9/20（水）10～12 時（ ）

以上